

令和５年度栗東市水道事業報告書

１．概 況

（１）総括事項

本市水道事業は、市民生活と社会経済活動を支える基幹施設として、昭和38年（1963年）2月の給水開始以来、常に安全で安心な水の供給に向けて取り組んでまいりました。

令和５年度の水需要は、昨年まで一時的に水道水の使用があった大口利用者の使用がなくなったことにより、総有収水量は前年度を下回りました。

また、節水機器の普及により水道料金収入が減少傾向にある中、安全で安心な水道水の安定的な供給と、災害に強い水道施設・管路の整備を行うため、令和６年２月１日に栗東市水道事業給水条例を改定し、令和６年４月検針分より水道料金について15%の値上げ改定を行いました。

事業面では栗東市水道事業アセットマネジメント及び栗東市水道事業経営戦略に基づき老朽化した水道施設の更新、耐震化に取り組みました。

今後においても、水道施設の耐震化に積極的に取り組むとともに、老朽水道施設更新等の事業を計画的に実施し、災害や危機管理対策の更なる強化を図ってまいります。

《 業務状況 》

給水件数は、19,948件で前年比94件増（0.5%増）となりました。年間配水量については、総配水量9,018,441m³で前年比107,861m³減（1.2%減）となりました。

また、有収水量は8,114,201m³で前年比176,971m³減（2.1%減）となり、有収率は0.8ポイント減の90.0%となりました。

なお、有収水量１m³当たりの供給単価は132.08円で、同給水原価は138.12円となりました。

《 事業収支 》

収益的収支については、水道事業収益1,226,882,017円に対し、水道事業費用1,245,611,181円となり、18,729,164円の当年度純損失を計上しました。

一方、資本的収支については、収入額422,149,546円に対し、支出額は1,010,065,628円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額587,916,082円については、減債積立金22,000,000円、建設改良積立金168,000,000円、過年度分損益勘定留保資金282,355,994円、当年度分損益勘定留保資金55,082,162円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整

額60,477,926円で補填しました。

《 建設改良事業 》

栗東市上水道第4次拡張事業の変更認可及び栗東市水道事業アセットマネジメントに基づき、第1高区配水池更新工事についてはS U S造2池式のうち1池が完成しました。引き続き2池に着手するものです。また、第2高区受水池・加圧ポンプ場更新工事については、工事が完了しました。

栗東市水道事業経営戦略に基づき、強靱な水道、持続可能な水道の構築を目指し、基幹管路の整備として綾、手原地先において送水管約277mの新設工事と、老朽管更新として霊仙寺、出庭、小野、安養寺地先において配水管約1,150mの布設替工事を実施しました。また、市道路事業に合わせ上鉤、坊袋地先において配水管布設工事と、小柿、出庭地先において舗装本復旧工事を実施しました。